未来を担う島っ子たち、島づくりの勉強で村議会を訪問

おがさわら

議会だより

第 121 号

議案審議…… 2
一般質問…… 4
委員会報告…… 7
議員レポート…… 10
編集後記…… 11

平成 28 年 8 月 1 日発行　発行／小笠原村議会　編集／議会だより編集委員会　電話 04998-2-3118

平成28年第2回定例会　6月8日、6月9日

５月28日、佐々木幸美議員がご逝去されました。
６月８日の本会議冒頭において、故佐々木議員のご冥福をお祈りし、全員で黙祷、各議員から追悼の言葉がありました。
本定例会では議案４件が提出され、すべて全会一致で可決されました。村政に対する一般質問は、６月８日、５人の議員から９件の質問が出されました。(⇒4ページから)

補正予算

●一般会計
2026万4000円を追加し、総額40億7099万8000円に
・父島保育園運営費に90万円…ひよこ組のエアコン取り換え工事
・海洋センターのAED設置に50万9000円
・観光宣伝費委託に370万円9000円…ランニングと観光を組み合わせたツアー、英語版パンフレットの作成
・道路維持管理に864万円…扇浦分譲地内の沈砂池の埋め立て
・父母中学校の教材費に167万6000円…教師用指導書の購入

●簡易水道特別会計
988万6000円を追加し、総額５億7485万円に
・父島時雨ダムの雨水流出対策工事　848万3000円

契約工事

●母島し尿処理施設の改良工事
契約金額　7538万4000円
契約の相手
株式会社　清流メンテナンス

報　告

CATV（ケーブルテレビ）の活用プロジェクト事業を、平成28年度に実施することの報告を受けました。

繰越金額　2100万円

平成27年度一般会計補正予算（専決処分）

7324万円を追加し、総額46億1339万3000円に

市町村総合交付金（東京都から区市町村に対する、一般財源の一部を補完するための交付金）が8564万円の収入増。年度末の不用額を減額するなどし、財政調整基金に1億1799万円を積み増ししました。

契約工事

●第2原水調整池整備工事（その1）

旧浄水場跡地に、渇水対策・取水安定強化のため調整池を整備します。平成28年度は、現在の建物と池を壊し、仮設のシートパイル（水の浸入を防ぐため地盤に打ち込む板状の杭）を敷設します。

契約金額　2億4424万2000円

契約の相手　大昭産業株式会社

訃　報

去る5月28日、佐々木幸美議員がご逝去されました。

佐々木議員は、返還直後の昭和43年9月から父島で、昭和55年4月には母島に帰島し、漁業に従事し、平成7年5月から、小笠原母島漁業協同組合の代表理事組合長として、当村の水産業振興にご尽力されました。

また、昭和58年4月に小笠原村議会議員に初当選されて以来、現在8期目29年間にわたり村議会議員として、さらにその間、議長を3代、通算10年間務められ、村政に多大な貢献をされました。

ここに、佐々木幸美議員のご逝去に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、慎んでご冥福をお祈りします。

一般質問

清水良一議員

農協に対する村長の所信は

清水議員　東京島しょ農協を本来の農協の姿に戻すべく、村や都の支援を求める。

村長　小笠原父島支店・母島店と情報交換を継続し、村ができることがあればやりたい。

清水議員　プロパンガス集積所移転の進捗状況は。

総務課長　今後も協議したい。

今年度以降のエネルギービジョン推進の施策について

清水議員　①施策の進め方は。②協議会の立ち上げは。③村有施設ごとにさらに節電を。④太陽光発電の成果と課題は。⑤系統連携への村の対応は。

村長　①公共施設への太陽光発電の導入を進め、中長期的取り組みは実現可能性を検証し再検討する。②議論の進め方の詳細は担当課で検討する。

総務課長　②今年度、連絡会の立ち上げに着手する。③全職員で節電に取り組む。⑤今後、東京電力と調整したい。

環境課長　④これまでの実績と課題を整理、評価していく。

政治教育と小中高の連携

清水議員　①政治教育について所信を伺う。②子ども議会のような取り組みを。③小中高一貫の利点を伸ばす施策は。

村長　学校教育の政治的中立と独自性を守り、教育委員会の方針、助言等を尊重し、村として支援していく。

教育課長　①学習指導要領に基づき、指導の充実に努める。②小笠原小学校の６年生が総務委員会を傍聴する。村議会の独自性を尊重しつつ、今後議会事務局と相談する。③教育委員会としても学校間連携の深化へ支援、調整に努める。

鯨江満議員

小笠原の安心・安全について

鯨江議員　関係各機関の警戒巡視体制により、対外的な安心・安全は保たれていると思われるが、村内の安心・安全が保たれているか不安がある。

村長　平成 26 年６月に小笠原警察署と小笠原村安全・安心まちづくりに関する覚書を交わし、さまざまな事案に相互協力をすることになっている。警察庁の協力や助言を受け、地域の安全に係る環境整備に努めることとしており、関係機関や村民の協力を得て、今後も安全・安心な村の構築に努力する。

鯨江議員　①小笠原小・中学校前の通学路と並行して流れている河川にふたをかけるなどの方法で通学路を広げられないか。②ＮＴＴ脇の見通しの悪いカーブに、より一層安全対策を施せないか。

建設水道課長　①学校前の大村川は都が管理しており、ふたかけなどの方法による歩道の設置は維持管理上課題が多く、難しい。②適時剪定を行い、安全を確保している。見通しの悪いカーブの舗装面への注意喚起の表示及び車の速度が抑制する工夫を関係機関と検討する。

鯨江議員　島内の防犯対策として防犯・監視カメラ設置の必要性を研究すべきだ。

総務課長　小笠原村安全・安心まちづくりに関する覚書の中で、防犯のみならず、交通環境も含め、必要な防犯対策に資する整備などに努めることを確認しているが、具体的には、道路を含めた施設の管理者が必要に応じて何らかの対策を講じることになる。今後、警察からも支援や助言を受けながら、安心・安全なまちづくりに努める。

一般質問

安藤重行議員

高齢者問題の現状と見通しは

安藤議員　①シルバー人材センター設置の現状と見通しは。②寝たきり対策推進への村の考え方は。③島の特性を生かした介護予防システム構築をするための、クラブハウスで活動するウエイトリフティング部とコラボレーションを図れないか。④奥村運動場のクラブハウスの建てかえ等の予定は。⑤ウエイトリフティング部への支援方針を問う。

村民課長　①社会福祉協議会と調査研究を進め、関係機関と調整しながら、事業のあり方を検討する。②総合事業では、要支援高齢者その他の高齢者に生活支援サービスを市町村の判断、創意工夫で総合的に提供できる。効果的な事業実施へ関係機関と連携する。③総合事業を構築する上で地域資源活用という意味で、行政だけでなく村民が担い手となる事業が重要だ。提案があれば参考にしたい。

教育課長　④クラブハウスの想定耐用年数は50年だが、具体的な建てかえ計画の策定段階にはないので、不具合には修繕等で対応する。⑤活動支援策としての経緯から、安全管理を把握して今後もクラブハウス利用を認める方針だ。

父島・母島の子育て支援は

安藤議員　父島、母島の取り組みの現状と今後を伺う。

村民課長　学童保育は父島で春夏の長期休暇期間に実施している。人員や経費の問題もあり、当面は現状を維持する。母島の母親達の要望を聞いた。母島保育園建替え後の施設利用にどう反映するか検討する。子育て世帯の実情に即した、子育て支援事業を進める。

共勝丸の動向と現状を問う

稲垣議員　①前定例会以降の貨物船共勝丸の動向と現状は。②分別ごみやプロパンガス、燃料を共勝丸で運んでいる状況がある。できるだけ早く安心・安全を確保してほしい。③今後も議会に共勝丸の動向を説明してほしい。

村長　①共勝丸の建造を促すため、前定例会以降、３回ほど株式会社共勝丸の社長と話す機会を持った。村からは、共勝丸の重要性を再確認しつつ、議会や村民の現船の老朽化に対する不安と新船建造への期待を伝えた。社長からは、３年後には新船を就航させたいこと、造船所側が８月中旬以降に豊海埠頭で現船を確認するなど設計の準備に取りかかること、再来年以降は造船所の船台にあきがあることが確認できたと報告いただき、村としても、協力できることがあればできるだけのことはするので、相談してほしいと伝えた。

副村長　②社長とお話しした際、私も改めて村民の思いをしっかり伝えた。社長もそれを改めて受けていただいて、造船所にも具体的な話に行っていただいた。造船所の動きも出始めている。実際の融資を受けるに当たっては、営業面で改善を示す必要があり、例えばプロパンガスの運賃が伊豆七島と比べて距離の割には非常に安いと銀行から指摘されていることについては、村も都と調整を進めている。結論はこれからだが、できることはなるべく相談に乗る姿勢で進めたい。③議会の直前ということではなく、電話でも連絡はとれるので、コミュニケーションをとって進捗を確認したい。

稲垣勇議員

一般質問

一木重夫議員

航空路の必要性について

一木議員　航空路が開設されたら民生の安定が図れると広報している。もし航空路が開設された場合、何がどう改善するのか。医療・福祉・教育の分野で、より具体的な事例を各担当課から伺う。また、現在の航空路案で農漁業の生産物等を航空路で運べるのか？

医療課長　内地受診の負担が軽くなり、専門科目が受診でき、医療機関の選択範囲が広がる。短期間で専門診療ができ、専門医師の確保も容易になる。医療機器も早期修理、復旧が可能で、輸血治療や検体検査も迅速に対応できる。

村民課長　高齢者等が内地の施設にすぐ移動、入所できる。虐待等で迅速に内地へ移送できる。児童福祉では専門職を招聘する事業を増やし、内容が充実する。要保護児童を迅速に保護できる。保健事業も専門職の招聘が容易で、療育サービスや健康診断も受けやすくなる。

教育課長　船便やドック期間の制約なしに本土の入試に臨め、修学旅行の経済的負担も軽くなり、効果的な教育課程を編成できる。本土の作品展や協議会、教職員研修等の参加機会も増え、外部講師等の選択幅が広がる。

総務課企画政策室長　農漁業の生産物等を貨物として運ぶのは困難。

図書室資料の選定について

一木議員　政治的に大きく偏り、公的図書室として不適切な政治教育児童用絵本を福祉センターの図書室で発見した。図書選定委員会を設置して、チェック機能をより働かせて欲しい。

村民課長　図書選定委員会の設置を検討する。社会福祉協議会との協定書でより具体的な図書室の管理業務の項目を盛り込む。

議長出張報告

3月27日	新「ははじま丸」命名・進水式
3月30日	小笠原諸島振興開発審議会出席
4月23日	西之島海上視察
5月16日	厚生労働省・東京都総務局行政部において情報・意見交換
	東京都島嶼町村議会議長会臨時総会出席
5月17日	東京都町村議会議長会定期総会ほか出席
5月18日	関東地方環境事務所、北関東防衛局において、情報・意見交換
5月20日	丸川珠代環境大臣あて意見書の提出
5月20日、21日	下田市黒船祭出席
5月24日、25日	選挙区及び小笠原を応援する会の国会議員に挨拶
5月26日、27日	江島潔、津島淳国土交通大臣政務官へ挨拶
5月28日、29日	島じまん２０１６式典出席
5月30日、31日	全国町村議会議長研修会出席

硫黄島調査特別委員会　6月9日

杉田一男委員長　　安藤重行副委員長

硫黄島での訓練や遺骨収容事業について報告がありました。

遺骨収集帰還事業

委員長　平成28年3月24日、衆議院全会一致で「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」と基本的な計画が成立し、遺骨収集の実施主体が厚生労働省直轄から、指定された実施法人が事業を行うこととなるが、村の関わる形はどうなるか。
副村長　基本的に変わらない。

訪島事業

委員長　参加する旧島民の方たちも、子、孫の世代へとなりつつあり集落の特定が困難になってきている。地名表示の銘板を設置することを以前提案したが、現状の取り組みは？
副村長　28年度予算で標識5本分の予算をいただいている。今回の訪島事業において位置の確認をし、道路際を中心に旧島民の方の意見をいただきながら設置したいと考えている。また、道路より中に入った集落跡の位置情報をGPS機器を使用し記録していく予定。

また、6月11日から6月14日、硫黄島訪島事業が実施され、村議会は議長以下議員5名が参加しました。

小笠原航空路開設推進特別委員会　6月9日

一木重夫委員長　　清水良一副委員長

委員会の名称を変更

本委員会は航空路を開設することが第一義的な目的であるため、委員会の名称を「小笠原空港開設推進特別委員会」から、「小笠原航空路開設推進特別委員会」へ変更しました。

村の航空路調査について

平成28年度に村が実施する航空路の調査内容に関する報告を受けました。過去の主要な調査報告と共に、調査報告会を開くよう村執行部に委員会として要請をしました。

総務委員会　6月9日

一木重夫委員長　　清水良一副委員長

航路改善

おがさわら丸運航スケジュールについて報告を受けました。

▶前年と変わった点

①大学入試センター試験の受験直後に一度島に帰ることを可能にするため、ドック期間を例年より遅らせます。

②年末年始の着発便でなく通常便で運航します。

主な質疑・意見

稲垣委員：病気など、介護が必要な住民の方用の船室は引き続き確保できているのか。

村民課長：これまでのおがさわら丸と同様に利用できる。村民課、母島支所で申し込みを。

一木委員長：島の中学・高校生に適用される割引制度が一般大人料金の25%。島外に住所を持つ小笠原出身の学生は35%割引。この差をなくしたいと要望してきているが、進捗状況は。

企画政策室長：平成２５年度に割引制度全体の改善を小笠原海運に申し入れたが、その際保留となっているものもある。村として要望する割引制度を改めて交渉していきたい。

清水副委員長：学生がもっと上京の機会を得やすい運賃にならないか

村長：現在村は修学旅行等支援を実施している。さらに必要な補助等があるか考えていきたい。あわせて島の学生も３５%割引になるよう引き続き小笠原海運に求めていく。

▶新おがさわら丸の２等和室予約座席指定問題について

新おがさわら丸の２等和室を予約すると座席が指定されてしまうため、他の家族・友人らと当日に相乗りすることが困難になりました。一木委員長、清水副委員長、安藤委員から、小笠原海運に村執行部から改善を申し入れることを求める意見が出ました。村長からは小笠原海運と話し合いをしていくとの答弁がありました。

世界自然遺産(継続)

会議のスケジュールについての報告、保全対策の状況について説明を受けました。

主な質疑・意見

清水副委員長：兄島全域への殺鼠剤空中散布を８月に予定しているが、なぜ８月なのか。台風により海に流れ出てしまう可能性などないのか。

環境課長：過去の経緯や反省を検証し改善策を整理した。アカガシラカラスバトの影響も考慮に入れた上で、できるだけ早い実施を目指した。

杉田委員：世界遺産を守るため、一刻も早い対策とあわせて村民に対する啓蒙も必要。

その他に、世界自然遺産登録５周年イベント、世界遺産センターの概要などの報告がありました。

平成29年度小笠原諸島振興開発事業概算要求について

村事業費が約15億円、国費で約8億円。昨年度と比べると事業費で1.89倍、国費で1.88倍との報告がありました。

平成29年度東京都予算編成に対する要望について

故佐々木幸美議員が取り組んでいた「沖港の防波堤の整備」等を新たな要望事項として追加したとの報告がありました。

「西之島新々島の行政視察」報告

安藤重行

4月23日（土）西之島新々島の行政視察に出発する。先に海洋島の動物たちのレクチャーを、村が招へいした鳥類研究者である、森林総合研究所の川上先生によるユーモアあふれる解説で分かり易く受講させていただいた。

島に近づくにつれて、太平洋の海のど真ん中に陸ができる！今まさに眼前に展開していることへの興奮を隠せない！海底火山の凄さが感じられる。世界で一般人がこの様を生で見た最初の1人となったことを誇りに思う。

1周すると以前の旧島・新島はほんの一部しか残っていない現状。以前上陸した時の記憶をたどりながら、よく少しでも残ってくれたとうれしい気持ちも湧き上がる。その残った台地で、カツオドリ、アオツラカツオドリ（絶滅危惧種Ⅱ類）、クロアジサシの海鳥3種類を生息確認ができたことは大変心躍ることであった。

もうほとんど噴煙も収まっている状況、天気に恵まれ、焼き走りの溶岩流が海岸まで達している様が、まざまざと目に入ってくる。

それでいて、こんなに砂地？と思われる海岸線が見られるとは驚きを隠せない。西側に向かうと変色海水域が意外と長く海底を走っている。まだ終わっていないのか？また、噴火するのか？と疑念がわいた。

この島に誰が一番先に上陸するのだろうと考えると、地質、鉱物、海洋などいろいろな分野の世界中の学者の目は、今一点に集まっているのではと思う。太古の小笠原諸島が形づくられた始まりが、今眼前のこの島にあることがとても貴重で重要なこととなった。

硫黄ガスの噴出する山頂

小笠原村にとって、大切な資源（研究、観光）の場となる。地球からの贈り物である。

しかし、その反面急激に膨らんだ海洋島の海岸線の崩壊などによる津波のリスク回避にも十分な注意が必要となる。国もそのリスク回避に年度を前倒しで取り組んで戴いていることを、小笠原の島人として大変有難いことと思う。2度目の周回では、頂上付近は、噴煙はなく水蒸気が何カ所も出ているのが観られた。多くの参加者も、驚嘆の声を隠せないようであった。これからの小笠原の観光立島の大切な財産としての看板がまた1つ増えることになった。そのルール作りも急ぐ必要がある。村が主導権を発揮することを願う。

国や都などの行政機関や研究機関等々との調整が重要になる。その見定めを取違えないようにしていかなければならないと、肝に銘じての視察となった。

最後に1つだけ心残りがある。安全確保の6kmまで近づけた時、噴煙と真っ赤な焼き走り溶岩が海水にたどりつく様を、夜の海上から一大パノラマで観たかったというのが本音にある。残念！！

生き残った旧台地と砂浜とアオツラカツオドリたち

議員レポート

議員研修

清水良一

議員になってちょうど丸1年が経ち2度目の議員研修に参加しました。

この議員研修は東京都町村議会議長会が主催し、毎年いろいろな方面の講師を呼んで講演会と東京都の町村の議員が集まり懇親会を開きます。そして情報交換と懇親を深めています。去年は人口分布から未来を予測しようとする藻谷さんでしたが、今年は歴史から未来を読もうとする加来耕三さんと言う歴史家でした。

歴史の中での原因と結果を楽しく詳しく説明し、歴史的事件は偶然ではないことを、そしてこれから歴史を見て、どんな世の中になるのかを予測しなければならないことに気付かされました。特に今、世界が考えなければいけないことの一つとしてなぜ第２次世界大戦がおきたのかをもう一度学ばなければならないと強く思いました。このことをたくさんの人に聞いてみたのですが、ほとんどの人が知らないのです。私も歴史の授業で習った記憶がありません。縄文時代や弥生時代の方がくわしいくらいです。日本の歴史教育は古い方からやっていくため近代史がどうしてもいい加減になっているのではないでしょうか？当村の歴史のなかで第２次世界大戦はもっとも大きな事柄です。もう一度なぜ第２次世界大戦が起きたのか、同じ轍を踏まない為には今、私たちがなにをしなければならないか、を思い起こさせる講演でした。

硫黄島旧島民の墓参

一木重夫

6月12日、小笠原村が毎年開催している硫黄島旧島民の墓参事業に参加しました。私は3年連続で鹿島建設近くの山下家の里帰りに同行。今回は山下家の屋敷跡をGPS端末で位置情報を記録するという重要な任務がありました。遡ること2年前、山下家の子孫である須永さんと私はジャングルと化した険しい密林の中から山下家の屋敷跡を発見。昨年もどうにか屋敷跡を発見しましたが、毎年確実に屋敷跡を特定するためには正確な位置情報が必要です。

今回、村執行部のGPS端末を借りて山下家の位置情報を記録。その後、平和祈念会館近くに移動し、今回不参加だった高橋家の屋敷跡も記録しました。

墓参事業で旧島民を毎年悩ませるのが屋敷跡を見つけることです。旧島民に寄り添って協力をしつつ、影ながら墓参事業を支えることが村議の役割でもあります。

米軍爆撃機B24の残がい

丸川環境大臣に意見書を提出

一木重夫

5月20日、小笠原村議会は丸川珠代環境大臣に「世界自然遺産の保全管理にかかる全国的な予算枠の拡大を求める意見書」を提出しました。今年3月、全会一致で採択された意見書です。

国は東京都、小笠原村、NPO等と連携をして侵略的外来種対策に全力で注力しているものの、増大する脅威に追いついていないのが現状。その大きな原因になっているのが予算不足です。そのため我々は、国内の世界自然遺産4地域を保全管理するための全国的な予算枠の拡大を国に求めました。また小笠原村議会は、他の世界自然遺産3地域7町村議会にも同様の意見書提出を国に提出して欲しいと要請しています。

丸川環境大臣は、小笠原諸島からこのような意見書が提出された事をとても歓迎してくれました。環境省が財務省に予算要求する際、地元からの声があることはとても大切だそうです。現在、他の世界自然遺産3地域の町村議会から、意見書提出の動きが次々と報告されています。小笠原村議会のこの動きが、世界自然遺産4地域の環境保全予算の増額に繋がることを期待しています。

編集後記

参議院選、舛添前都知事の問題からの都知事選！政治にまつわる問題が絶え間ない。

小笠原村議会では、佐々木前議長の死という大きな出来事が起る。一番長く議員活動を務められ、貴重な財産を失ってしまった。6月19日に母島でのお別れ会が執り行われた。議員全員が列席。心よりご冥福をお祈り申し上げました。

5月中旬～7月初旬にかけては、旧船及び新造船2隻のお別れと新規就航のイベントが続いた。また、新西ノ島新島視察、八丈議会の訪問、定例議会、硫黄島墓参など目白押しとなり、議会のお知らせも多くなってしまう。

皆様に読んでいただける紙面作りを心掛けて、編集会議等頑張っています。ぜひ、ご意見等をお寄せいただければありがたいと思います。

（安藤）

★議会だより編集委員
一木重夫　安藤重行★

お問い合わせ先　小笠原村議会事務局　電話 2-3118　FAX　2-3208　メール gikai@vill.ogasawara.tokyo.jp

小学6年生議会傍聴にやって来る！！

6月9日総務委員会に小笠原小学校の6年生が傍聴にやって来ました。議会は本会議の他、各種委員会があります。継続的で細かい案件については、この総務委員会で話し合われます。この時、話し合った内容は新おがさわら丸の予約システムや学割について。また、外来種問題について、子供達やその親ごさん達が興味をもてることについて議論をしました。後日小学生たちの感想を書いた感謝状を頂きました。話は少し難しかったようですが、村民のためにいろいろなことが、真剣に話し合われている議会と言う場があるという事を解ってくれたようです。

今回の企画をしてくれた、担任の渡邊先生と西澤校長に感謝をするとともに、今後とも村民に寄り添った議会を心がけるようにしたいと思います。ぜひ一般村民の方達も気軽に議会傍聴にお越しください。

担任　渡邊先生から

『昨年成立した改正公職選挙法により、7月10日の参議院選挙から18歳以上が投票できるようになりました。政治的な教養は小学校時代から育てる必要があります。

小学校6年生での政治学習は12月以降に行うのですが、実際の授業の前の貴重な先行体験になりました。

より住みよい村にするために村長や村役場の方々、議員の方々の考え合う姿を間近に傍聴させていただくことができました。

また議会特有の緊張感なども感じることができ有意義な見学となりました。ありがとうございました。』